



藤田 嗣治 7つの情熱

2026.9.17(thu)－11.23(mon)



佐川美術館では、2026 年度秋季展覧会として「生誕 140 周年 藤田嗣治 7つの情熱」を開催いたします。

本展は、藤田嗣治（レオナール・フジタ 1886-1968）の芸術を 7 つのテーマで紹介する展覧会です。藤田研究の第一人者として知られるシルヴィー・ビュイッソン氏の監修のもと、藤田の創作源を「自己表現」「風景」「前衛」「東方と西方」「女性」「子ども」「天国と天使」という「7つの情熱」で読み解きます。

これまであまり紹介されてこなかったフランス各地の作品を中心に、油彩、版画、資料など日本初公開を含む約 140 点を一堂に展覧します。

広報画像

藤田と猫（ドラ・カルマスによる）（1927 年）

Foujita avec son chat, 1927, photographie de Dora Kallmus, courtesy Sylvie Buisson, 2026

展覧会実施概要

名称 生誕 140 周年 藤田嗣治 7つの情熱

Les 7 Passions de Foujita

会期 2026 年 9 月 17 日 [木] ～ 11 月 23 日 [月・祝]

開館時間 午前 9 時 30 分 ～ 午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休館日 月曜日（9/21、10/12、11/23 は開館）、10/13

入館料 一般：当日窓口 ¥1,600 / WEB 予約 ¥1,500

高校・大学生：当日窓口 ¥800 / WEB 予約 ¥700（要学生証提示、専門学校・専修学校は大学に準じる）

中学生以下無料（小学生以下は要保護者同伴）

障がい者手帳をお持ちの方（要手帳提示）、付添者 1 名まで無料

[主催] 佐川美術館（公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団）

[後援] 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ

滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会

[協力] 日本航空株式会社、S G ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

[企画協力] 株式会社ブレンダーラスト

Commissariat général: Sylvie Buisson, historienne d' art et expert de Léonard Foujita



藤田 嗣治（レオナール・フジタ）

1886 年、東京府牛込区（現・東京都新宿区）に生まれ、東京美術学校（現東京藝術大学）で学ぶ。1913 年、26 歳で渡仏、キュビズムをはじめとする前衛芸術運動に触れた後、「乳白色の肌」の裸婦像で一躍人気を集める。1933 年に南アメリカ経由で帰国するものの、第二次世界大戦中に制作した戦争記録画により戦争責任を問われ日本を去り、1950 年に再びフランスに渡る。1955 年にフランスに帰化し、72 歳の時にカトリックの洗礼を受け「レオナール・フジタ」と改名。81 歳で他界するまで精力的に制作を続けた。



《自画像》1960 年 個人蔵（フランス）

見どころ

1

「7つの情熱」という新しい切り口で、藤田嗣治作品の魅力を紹介します。

2

藤田のカタログ・レゾネ（全作品集）の編集者である
シルヴィー・ビュイッソン氏の監修のもと、
日本初公開を含む国内外から集められた作品を展示します。

3

渡仏初期から晩年に至るまでの作品を通じて、
藤田が独自の表現を切り拓き、深めていく過程を辿ります。

展示構成

本展では7つのテーマから、約140点の作品で藤田の創作源を読み解きます。



《ヴォジラール、パリ》1953 年 個人蔵（フランス）

1. 自己表現への情熱

2. 風景への情熱

3. 前衛への情熱

4. 東方と西方への情熱

5. 女性への情熱

6. 子どもへの情熱

7. 天国と天使への情熱

1 自己表現への情熱

La Passion de Lui-même

丸メガネ、オカッパ頭、口ひげ、イヤリングや洒落た服装……。藤田は作品とともに、その外見が広く知られた画家のひとりです。フランスと日本、伝統的教育と前衛というふたつの文化の狭間で、藤田は自分だけの境地を確立しようと試みました。藤田の他者と一線を画すイメージは、自ら築き上げた唯一無二の芸術のひとつの表れと考えられます。

2 風景への情熱

La Passion du Ciel

世界各地を訪れた藤田は、その先々の風景を描きました。特に 1914 年、パリ周辺を描いた風景画は、藤田独自のスタイルをもたらすことになりました。藤田の風景画にみられる「無」の空間は、やがて白や金の背景のような、何もない空間に潜む美しさへと繋がっていきます。

3 前衛への情熱

La Passion de l'Avant-garde

藤田が渡仏した 1913 年、パリでは前衛芸術が全盛期を迎えていました。ピカソのアトリエを訪れ衝撃を受けた藤田は、1910 年代にキュビズム風の作品を描いています。前衛芸術に直に接し、その様式を試みたことは、アカデミックな教育を乗り越え、新たな境地を切り開くきっかけとなりました。

4 東方と西方への情熱

La Passion de l'Est et de l'Ouest

第一次世界大戦中、多くの日本人留学生が帰国する中、藤田はパリに留まりました。戦中という特殊な環境下で、あらためて日本の文化を見つめ直した藤田は、面相筆を使った極細の墨線、金屏風を連想させる黄金色の背景、飛鳥時代の仏像のようなアーモンド形の眼など、日本美術の要素を自作に取り入れていきました。

5 女性への情熱

La Passion de la Femme

1920 年代、藤田は「乳白色の裸婦」で高く評価され、その名が広く知られるようになりました。この裸婦像の誕生には、1924 年からともに暮らし始めた妻リュシー・バドゥーが大きな役割を果たしています。リュシーはその肌の白さから、日本語の「雪」にちなんで「ユキ」と呼ばれていました。藤田は画材の研究を重ね、白い肌の表現に挑みました。1931 年、藤田はリュシーと別れ、新たに妻となったマドレーヌ・ルクーとブラジルに旅立ちます。マドレーヌは 1930 年代以降、金髪で流麗な曲線を持つ裸婦像の着想源となりました。



《友達、ユキとマド》1926 年 個人蔵

6 子どもへの情熱

La Passion des Enfants

藤田は晩年に近づくにつれて、風刺画を中心に独特の容貌を持つ子どもたちの姿を描くようになりました。これらの作品の多くは、特定の肖像画というよりも、空想上の子どもたちを描いたものでした。純真無垢で恐れを知らず、自然に最も近い存在といえる子どもたちを愛した藤田は、彼らに自分の理想の姿を重ねていたと考えられます。

7 天国と天使への情熱

La Passion des Anges et du Paradis

藤田はカトリック系の学校でフランス語を学ぶなど、早い段階からキリスト教に接していました。洗礼を受けたのは 1959 年のことですが、1910 年代後半、すでにキリストの「生誕図」や「磔刑図」などを描いています。藤田のキリスト教に対する情熱は、1966 年に内装を手掛けたシャペル・ノートル＝ダム・ド・ラ・ペ（平和の聖母礼拝堂）において頂点に達します。



関連イベント ※各イベントの詳細は美術館ホームページで随時公開します。

● トワイライトコンサート

第一夜：9月19日（土） 【時間】 17:30 ～ （入館は16:30まで）

【出演】 461 モンブラン 【料金】 無料（別途入館料）

藤田が活躍した1920年代パリの音楽をお届けします。



第二夜：10月17日（土） 【時間】 17:30 ～ （入館は16:30まで）

【出演】 Dúo Camino 【料金】 無料（別途入館料）

藤田が旅した中南米のラテン音楽をお届けします。



● はじめての銅版画 — ドライポイントで猫を描いてみよう！（予約制）

【日時】 10月4日（日） ①10:00～12:30／②14:00～16:30（各回15名） 【料金】 1,000円（別途入館料）

【講師】 松井 亜希子 氏（銅版画家・銅版画教室 Copper print studio 主催） 【対象】 小学生～大人（小学生は要保護者同伴）

広報用画像について

本プレスリリース中に掲載している広報画像（P.1 掲載）とメインビジュアル画像をご用意しております。画像データをご希望の方は、同封の作品画像使用申込書に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

当館ホームページ（<https://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>）からも申請いただけます。

広報画像は使用にあたり、必ず申込書記載のキャプションと著作権表記を付けてください。

また、画像のトリミング、オーバープリント、上書き、改ざんはできません。画像は使用后必ず削除し、保存しないでください。なお、画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。

原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に日数を要するため、お早めをお願いいたします。

交通のご案内

お車ご利用の場合 駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 （約 30 分）
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 （約 30 分）
- 名神京都東 IC から湖西道路（真野 IC）・琵琶湖大橋経由 （約 40 分）

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス 「佐川美術館」下車 （約 35 分）
- JR 湖西線堅田駅から路線バス 「佐川美術館」下車 （約 15 分）

お問合せ

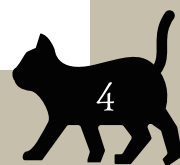
佐川美術館（公益財団法人 S G H文化スポーツ振興財団）

企画担当学芸員：深井

MAIL：c_fukai001@sagawa-artmuseum.or.jp

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL：077-585-7800 / FAX：077-585-7810



画像使用申込書

藤田嗣治 7つの情熱

2026.9.17 (thu)–11.23 (mon)

佐川美術館 宛

FAX / 077-585-7810

申込日： 2026 年 月 日

作品画像の露出・掲載等 ご使用にあたっての注意	● 申請された方法、目的以外には使用しないでください。 ● 掲載誌・紙は資料として2部お送りくださいますよう、お願いいたします。
使用作品 ※ご希望の画像にチェック を入れてください。	☐ ① 広報画像 ☐ ② メインビジュアル画像  ※「①広報画像」をご使用の際は、下記キャプションの併記をお願いします。 藤田と猫（ドラ・カルマスによる）（1927年） Foujita avec son chat, 1927, photographie de Dora Kallmus, courtesy Sylvie Buisson, 2026 原稿は担当者まで必ずお送りください。確認に日数を要するため余裕をもってお願いいたします。 計 点
媒体名	
貴社名	
ご芳名（ご所属）	
ご連絡先	ご住所：（〒 ） メールアドレス： TEL： FAX：
発行（掲出）予定日	2026 年 月 日 号
使用形態（○印）	Web サイト / 印刷物 （ カラー / モノクロ ）